

# そらんぽへ行こう

固 博物館・プラネタリウム (TEL) 355-2700 (FAX) 355-2704

## 昨年度寄贈された 新収蔵品を公開

5月16～31日に、そらんぽ四日市3階の  
展覧処「白里亭」(常設展「時空街道」内、  
観覧無料)で、新収蔵品展を開催します。

注目は、本市出身の作家・丹羽文雄の随筆  
「海ゆかば一艦内生活の断片」の草稿(自  
筆原稿)の1枚目です。

丹羽は、明治37(1904)年、現在の浜田  
町にある真宗高田派の崇願寺そうげんじに生まれました。  
一時僧職に就きましたが、昭和7(1932)  
年に発表した小説「鮎」が好評を得たのを機  
に上京。以後、多数の作品を発表し、半世紀  
にわたり昭和文壇の第一線で活躍しました。

「海ゆかば一艦内生活の断片」は、太平



丹羽文雄草稿「海ゆかば一艦内生活の断片」

洋戦争開戦後の昭和17(1942)年に、丹羽  
が海軍報道班員として、南方へ派遣された体  
験をもとにした作品です。

本草稿は、連載していた雑誌編集長の遺品  
として昭和51(1976)年に発見され、同年、  
他の文豪の原稿とともに一般公開されました。  
1枚目のみ現存しますが、当時発見された他  
の原稿の多くも署名の入った1枚目のみとさ  
れています。

本品をはじめ、いずれも収蔵に至るまでに  
さまざまな背景があります。本展で、ぜひお  
確かめください。

# 文化財さんぽ

固 文化課 (TEL) 354-8238 (FAX) 354-4873

## 四日市の大入道さん

大入道山車だいしは日本最大のからくり人形をも  
つ山車で、全高約9mあります。大入道は白  
黒の縞模様の着物を着た、坊主頭ぼうしのからくり  
人形で、演技中は銅鑼と太鼓のリズムに合わ  
せて首を伸ばし、舌を出し、目を剥くなど独  
特の動きを見せます。

山車は文化2(1805)年に名古屋のから  
くり人形師によって制作されたとされ、詳細  
は不明ながら、その歴史的価値は高く評価さ  
れています。もとは諏訪神社の例祭「四日市  
祭」にて、桶之町おけのまち(現在の中納屋町)の町衆  
が披露したのが始まりとされています。この



大四日市まつり  
での大入道山車

地域では昔、タヌキが出没して人々を驚かせ  
ており、その鎮めの意味を込めて大入道が作  
られたという民話もあります。

戦災で多くの山車が焼失する中、大入道山  
車は焼失を免れた貴重な山車です。昭和51  
(1976)年に三重県指定有形民俗文化財に  
指定され、地域の文化遺産として現在も大切  
に受け継がれています。

また、総合会館には高さ約4mの「大入道」  
の模型が展示されています。訪れた際にはぜ  
ひご覧いただき、地域に伝わる文化の一端に  
触れてみてください。